

## 空から見た神戸（1995年4月号掲載・井上 雅文）



今まで上空より見慣れた景観が一転し市内は想像を絶する火災が発生し、家屋、ビルが倒壊し、鉄道、高速道路はいたる所で寸断され壊滅状態であった。

「なんや、なにすんねん」

地震や、凄い揺れ、とっさに本棚を押さえていた、電気が点く、家族、家にも被害はない、テレビをつけた各地の震度、京都 5、大阪 4、神戸の震度がでてない、電気が切れた、外の状況を見ても異常は見られない、電話のベルが鳴った、甲号非常招集が発令になった、参集せよとの連絡を受け自宅を自転車で出発。7時だった。

ラジオの放送により「神戸が大きな被害を受け火災が発生している」、西神戸有料道路、山麓バイパスを通行し機動隊庁舎に向かう、ひよどり料金所を通過した所で目を疑った、市内から数本の黒煙が立ち上がっている、市内は薄暗く朝日が見えない、生田川を南下した所でビルが倒壊し横倒しになっている、神戸大橋にさしかかる道路は凸凹、いける所まで行こう、下り口の所で車が止

まっている。一面が泥だらけである。行けない車をポートターミナルに置き、庁舎に向かう、道路、公園一面に泥が浮き上がって思うように歩けない、歩道橋は地面との段差ができている、ビルとも段差ができている。やっとの思いで庁舎に到着した、8時40分だった。既に3名の隊員が単車で参集していた、隊員と共に飛行準備に取りかかる、救助機材の準備、散水器の準備をし本部との連絡を取る、連絡がつかない専用線、加入、無線…。

格納庫内、ヘリポート一面にも泥が噴出し凹凸ができている、ヘリを出す事ができるかヘリスポット、誘導路を全員で確認する、噴出した泥の深さは約20センチぐらいであり亀裂等は確認出来ない「出せる」ヘリをおそる、おそる格納庫より出しヘリスポットへ移動後、機動隊長が到着、状況報告後整備士を運航管理者として待機させ、9時24分神戸ヘリポートを離陸した。東灘から須磨区にかけて約数十箇所から黒煙が立ち昇っている、すぐ状況を本部に送信する、応答がない、各署本部ともコンタクトが取れない、市街地の状況をポラロイド写真、VTRを撮影し東遊園地に着陸し司令課員に手渡し離陸、ポートアイランド、六甲アイランドを經由し東灘から状況を確認する。

ポーアイは液状化現象により一面が泥色に染まり、コンテナバースには亀裂が入り大型クレーンは傾いている、島の形が変形しているように見える。六甲アイランドはポーアイほどの液状化現象は見られないが、護岸は歪になっており、六甲ライナーの橋脚が落下しており、六甲大橋の下には水道管らしい物が垂れ下がっている。

灘区から東灘にかけての酒蔵がない、煙突も、阪神高速が横倒れになっている、歪んでいる。道路上には車両が放置されているが人は確認できない。

軌道上には車両が停車し、軌道は歪み、高架は倒壊している、人は確認できない。

東灘区から灘区にかけて特に民家の倒壊が多く一面が赤茶色に染まった様に見える、各公園、グランドには避難者が数多く確認できる。

三宮地区は、市役所二号館、明治生命ビル、交通センター、新聞会館、国際会館等数え切れない多くのビルが崩壊、傾いており、どのビルが正常であるのかわからない状態であり、倒壊したビルで道路を塞いでいる箇所が数箇所確認できる。

兵庫、長田、須磨上空の空は黒霧に包まれた様に黒く、地上からは限りなく黒煙が噴出し火柱が上がっている、産業地図に場所を赤く塗り潰していく、一か所の火災が数ページに及ぶ、地図は真っ赤に染まっていく、消防力対抗出来ていない、ヘリから散水出来ないか、地上隊とコンタクトを取れども取れない、強行すれば二次災害を引き起こす恐れがある。機動隊長から今回は情報収集を実施せよとの命により写真撮影、VTR 撮影に専念した。

今回の災害において、救援物資の搬送、救急搬送、山岳救助活動を行った、活動上様々な問題があった。

- 上空では報道ヘリ、民間ヘリ、自衛隊ヘリなどの多数のヘリが市街地上空を飛行しており大変危険な状態であった。
- 地上隊、本部との無線が輻輳し連絡が取れない状況であり唯一連絡を取れるのは航空無線であった。
- 機動隊の機動性を発揮させるためにも車両の配置、365 日体制を確立する必要があると思う。

- 現在、庁舎のある神戸ヘリポートは公共ヘリポートであるため、多数の機体が集結して活動拠点としては使用できない。今回は、消防ヘリポートを活動拠点にする事ができたが、燃料の確保、格納庫の整備等実施する必要がある。

その他問題点等たくさんあるが、色々な面から検討していただきたい。